

平成30年4月 教育委員会会議録(要旨)【4月23日(月)】

<p>〔開会の宣告〕 遠藤教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤教育長</p> <p>〔公開の審議〕 遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>平成30年4月定例教育委員会会議を開会する。</p> <p>本日は、私の他5人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、小屋松委員と西山委員とする。</p> <p>本日の会議日程について、議第30号については、「委員・研究員の氏名を公開することにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあること」、報告(1)については、「教育施策の意思決定過程中的案件」に該当することから、会議規則第13条に基づき非公開の審議が適切と考えるが、議第30号及び報告(1)について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>全員賛成により、議第30号及び報告(1)については、非公開とする。</p>
<p>日程第1 前回会議録承認</p>	
<p>遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>3月20日開催の平成30年第2回臨時教育委員会会議録、3月28日開催の平成30年3月定例教育委員会会議録及び3月29日開催の平成30年第3回臨時教育委員会会議録を承認することに異議があるか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>異議なしと認め、前3回の会議録を承認する。</p>
<p>日程第2 事務局報告</p>	
<p>(1) 事業・行事等報告について</p> <p>前回会議(H30.3.28)以降の事業・行事報告(主なもの)</p>	

平成30年4月 教育委員会会議録(要旨)【4月23日(月)】

3月29日(木)	総合教育会議
	第3回臨時教育委員会会議
4月 9日(月)	市立高等学校、平成さくら支援学校入学式
	市立幼稚園、小中学校、高校、支援学校、専門学校始業式
10日(火)	市立中学校、総合ビジネス専門学校入学式
11日(水)	市立小学校入学式
12日(木)	市立幼稚園入園式
18日(水)	第1回校長・園長代表者会
今後の予定(主なもの)	
4月26日(木)	第1回校長・園長会
5月16日(水)	教育市民委員会視察(～18日)
日程第3 議 事	
・議第31号 小中連携カリキュラム【熊本市スタンダード】の策定について	
	《松島指導課長 提出理由説明》
西山委員	中学校区ごとに小中連携カリキュラムを作成するということが、校区ごとに作成するのは何故か。
松島課長	「熊本市スタンダード」は、「徳・知・体」を網羅したものとなっているが、例えば、ある中学校区では挨拶などの生活面に、また別の校区では学習面に特化した連携の必要があるなど、校区ごとに重点項目がある。中学校区ごとに小中連携カリキュラムを作成するための参考資料として、本案を使用させていただくというものである。
西山委員	学校ごとの実態に基づいて、特に何を推進すべきかを決めて、それを連携カリキュラムとする、という理解で良いか。
松島課長	そうである。
泉委員	このスタンダードの中で、小学校から中学校に進学する際のギャップを埋める工夫があれば教えていただきたい。

平成30年4月 教育委員会会議録(要旨)【4月23日(月)】

松島課長	<p>中1ギャップの解消は、この連携カリキュラムの大きなねらいの1つである。この連携をきっかけに、小学校で行われていた指導を中学校でも同じように行い、子どもたちのスムーズな学校生活の移行を図っていくものである。小中をつなげるという意識を持って、各校区でカリキュラムを作成するよう依頼することにしている。</p>
出川委員	<p>小学校によっては、進む中学校がいくつかに分かれる場合があるが、その対応についてはどうか。</p>
松島課長	<p>ご指摘のような校区については、この学校との連携を考えて作成するようにと、校区の枠を示しているところである。複雑な校区割りがある中で、まず全ての学校において、小中のつながりを考え、意識を高めることが大事と考える。校区ごとに小中学校のつながりを考え、対応いただくように進めていく。</p>
森委員	<p>出川委員の質問に関連するが、一つの小学校から、例えば2つの中学校に進む地域があるとする。中学校の校区ごとに独自の連携のテーマを決めるということだが、双方の中学校のテーマが全く違い、小学校で2つのテーマに取り組まなければならないとなると、道徳や英語への対応もある中で、小学校に更に多くの負担を強いることになるのではないかと危惧するところがある。その点をどう考えるか。</p>
松島課長	<p>毎年、小中連携担当者会を開いており、校区ごとに集まり、ご指摘のような校区については、個別に中学校の間でも推進すべきことについて話し合い、小学校が動き易いような調整を行っている。</p>
森委員	<p>先程も述べたように、小学校で今一番大変なのは、道徳と英語であり、この春休み期間、小学校の先生は、休み返上でその対応に当たられたと聞く。地域ごとのテーマに取り組み、深めることは大事であるが、小中連携を深めることで、特に喫緊の課題である小学校における英語教育について、中学校の英語の先生が小学校に乗り入れて、小学校の英語教育の負担を減らすというような想定はないのか。</p>
松島課長	<p>そういう部分も視野に入れている。昨年度、楠中校区では、</p>

	<p>楠中学校の英語の先生が、楠小学校と楡木小学校に乗り入れをして、小学校の外国語活動に協力をを行い、高い効果があったとの報告が上がっている。このことも小中連携のメリットの一つであると考えており、他の学校にも事例があるため、そのような取り組みの紹介も行いながら、各校区での取組を促していく。</p>
<p>森委員</p>	<p>教育委員会で強制することではないが、学校の負担軽減について大きく旗上げしていくところでもあり、負担軽減の後押しとなるような対応を行っていくといいと思う。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>問題はこのカリキュラムが、現場にどのように反映されていくかである。多忙な中で、先生方はこのカリキュラムをどのように捉えて進めていくのか懸念するところである。また、小中の連携では、中1ギャップの話があったように、小学校から中学校への進学が、子どもたちに大きな影響を与えるものと考えられるため、一番にそのギャップを埋めることに取り組むべきだと考える。全ての分野に取り組むことは、現場の先生方にとっても負担が大きく、結果的に一つもできなかったということにならないようにしなければならない。</p>
<p>西山委員</p>	<p>資料4 - 3「豊かな心」の「自他の理解力」について、中学校の欄の「他者の個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、互いに認め合う」ことを、道徳で教えることになっている（資料4 - 6）。これは、道徳の授業でできることなのか。他にも、このことと関連がありそうな項目があるが、それについては国語で扱うことになっている。現場は混乱しないか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>道徳の指導要領との関連性を例示しているが、一番わかりやすい例を示しているだけであり、様々な授業や、掃除・給食の時間など、全ての学校教育の中で取り組んでいただくものである。</p>
<p>西山委員</p>	<p>他者には他者の、自分には自分の考え方があると認め合ったうえで建設的な議論を行うことは、社会人になった時にとても重要なことであり、是非学校でこのような教育が実践されることを願います。</p> <p style="text-align: center;">〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>

平成30年4月 教育委員会会議録(要旨)【4月23日(月)】

〔非公開の審議〕	
日程第3 議 事	
	<p>・議第30号 熊本市教科用図書選定委員会委員の委嘱について</p> <p>《松島指導課長 提出理由説明》</p> <p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>
日程第4 報 告	
〔閉 会 〕 遠藤教育長	<p>・報告(1) 平成31年度学校教員採用選考試験について</p> <p>《木櫛教職員課長 報告》</p> <p>本日の日程は全て終了したので、平成30年4月の定例教育委員会会議を閉会する。</p>